



令和5年6月21日

東京都千代田区四番町5番地3  
科学技術振興機構（JST）  
Tel：03-5214-8404（広報課）  
URL <https://www.jst.go.jp>

## 「次世代科学技術チャレンジプログラム」 令和5年度採択機関の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、「次世代科学技術チャレンジプログラム」における令和5年度採択機関を決定しました（別紙1）。

次世代科学技術チャレンジプログラムは、グローバルサイエンスキャンパス（主に高校生が対象、平成26年度開始）とジュニアドクター育成塾（小中学生が対象、平成29年度開始）を発展的に統合し、小中高校生を対象とした長期的かつシームレスな育成プログラムを新たに設け、令和5年度より開始した事業です。本事業では、科学技術イノベーションを牽引する次世代の傑出した人材を育成するため、初等中等教育段階（小学校高学年～高校生）において理数系に優れた意欲・能力を持つ児童生徒を対象に、その能力などのさらなる伸長を図ることを目的とします。探究活動、STEAM教育、アントレプレナーシップ教育、国際性の付与などの高度で実践的な取り組みをはじめとした、実施機関や地域などの特徴を生かした多様で挑戦的な取り組みを支援します。支援期間は最長5年間、支援金額（上限）は1年当たり1,000万円～4,000万円です。

本年度の公募は、令和5年2月9日（木）から3月29日（水）の期間に行い、対象とする児童生徒の学年段階により小中型、高校型、小中高型の3つの申請タイプを募集し、計29件（小中型11件、高校型9件、小中高型9件）の応募がありました。その後、外部有識者で構成される委員会（別紙2）にて審査し、その結果をもとに計12件（小中型6件、高校型3件、小中高型3件）の採択機関を決定しました。

なお、事業の詳細については下記のホームページを参照してください。  
ホームページURL：<https://www.jst.go.jp/cpse/stella/>

### <添付資料>

別紙1：次世代科学技術チャレンジプログラム 令和5年度採択機関・企画一覧

別紙2：次世代科学技術チャレンジプログラム 推進委員会 委員一覧

参考：次世代科学技術チャレンジプログラム 令和5年度募集概要

### <お問い合わせ先>

科学技術振興機構 理数学習推進部 能力伸長グループ

〒332-0012 埼玉県川口市本町4丁目1-8 川口センタービル

亀井 威則（カメイ タカノリ）

Tel：048-226-5669

E-mail：[stella\[at\]jst.go.jp](mailto:stella[at]jst.go.jp)

次世代科学技術チャレンジプログラム  
令和5年度採択機関・企画一覧

機関名	企画概要
企画名	
慶應義塾大学	<p>身近な課題発見から始まり、地球規模での課題も捉え、そのつながりを理解し、国内外のステークホルダーと連携して解決策までを練り、行動に移すことができる次世代のパスツール型研究人材の育成を目指す。第1段階では主に身近な課題を対象に複数視点から物事を俯瞰的かつ詳細に捉える「システム思考」と、当事者の視点に共感して新たなアイデアをつくる「デザイン思考」により、一連の研究プロセスの基礎を習得する。第2段階では、国内外の課題当事者や研究者とも連携し、受講生がメンタリングを受けつつ「GLOBAL」な研究を実行する。本企画を通じて研究人材を育成する手法を確立し、将来は同様の取り組みを全国に広げることを目指し、「GLOBAL」な課題の解決ができる人材を国内外通じて持続的に育成する体制を確立する。</p>
<p>KEIO WIZARD “GLOBAL” 身近な課題と世界の課題の繋がりを理解して解決策を創り行動できるジュニアドクターの育成</p> <p style="text-align: center;">【小中型】</p>	
静岡大学	<p>静岡STEAMアカデミーは、ジュニアドクター育成塾での5年間の実践成果を基盤とし、将来イノベーションを起こし得る人材を育成するために、新たな価値を提供する教育実践に取り組んでいく。特に、受講生の未来の科学者・工学者などとしての資質・能力を高めていく中で「自由研究（科学、技術、工学、数学、リベラルアーツ分野：STEAM分野）」を重要視し、プロセス・スキルズ、創造的課題解決能力、自己管理、コミュニケーション力などを育成しながら、研究遂行能力の向上を目指す。さらに自由研究における受講生の個別の学習を、コーチングによって高めていくことについて、定性的かつ定量的に実証研究を展開することを本企画の目的とする。</p>
<p>静岡STEAMアカデミー</p> <p style="text-align: center;">【小中型】</p>	
三重大学	<p>科学研究に強い関心と潜在的な才能を持つ児童生徒を対象に、三重大学が中心となって策定するジュニアドクタープログラムを県内高等教育機関などとの連携により実施し、個に応じた支援をすることで、個人またはグループ研究を促進するとともに、イノベーション力を高める。特に高い能力を示す児童生徒に対しては大学の研究室で研究指導を行い、研究成果の科学技術コンクールへの応募、学会・研究集会での研究発表、工学的研究の場合は考案した作品発表などにより、能力のさらなる伸長を図る。プログラム修了後も、受講生と修了生を対象として構築するジュニアドクター・ネットワークにより情報共有と継続的な支援を行い、高校進学後も研究指導を継続することで、未来創造型の科学技術イノベーション人材の育成を進める。</p>
<p>三重ジュニアドクタープログラムによる未来創造型人材の育成</p> <p style="text-align: center;">【小中型】</p>	

機関名	企画概要
企画名	
<p data-bbox="225 353 424 389">鳴門教育大学</p> <hr/> <p data-bbox="177 510 472 719">徳島県高等教育機関連携型 次世代科学者発掘・養成講座～未来を切り拓く次世代の科学者をオール徳島で育てよう～</p> <p data-bbox="260 750 389 786">【小中型】</p>	<p data-bbox="501 383 1420 763">鳴門教育大学を中核機関として、徳島県高等教育機関である徳島大学、徳島文理大学、四国大学、阿南工業高等専門学校と共に、徳島県、徳島市、鳴門市教育委員会、学校、地域の教育機関、科学技術分野の関連機関および専門家と連携する。一定水準以上の理数系領域に強い意欲と高い才能を持つ小学5・6年生および中学生を対象に、問いの資質・能力（探る、究める、発見する）の連続性の育成を重視しながら、成長型の自己実現を伴う自律的な探究と成果を伝えるコミュニケーション能力を育む分野領域横断的STEAM教育講座を実施することにより、未来を切り拓く次世代の科学技術イノベーションを先導する科学者を発掘・養成する。</p>
<p data-bbox="225 887 424 954">津山工業高等専門学校</p> <hr/> <p data-bbox="177 1077 472 1285">歴史的文化的資源とグローバル教育資源を活用した次世代人材育成プログラム「つやまSTEAM人材育成塾」</p> <p data-bbox="260 1317 389 1352">【小中型】</p>	<p data-bbox="501 898 1420 1379">過去5年間のジュニアドクター育成塾の活動実績・成果を継承しつつ、新たな展開を目指すものとして、地元津山の「津山洋学（蘭学）」などの岡山県の特徴的な歴史的文化的資源による「A（アート）視点に基づくSTEAM教育」、および津山工業高等専門学校の強みである国際交流や留学生教育に関する教育資源を活用した「グローバル教育」を展開する。これらの教育リソースを融合し、教育委員会、美術館、博物館、大学などの多くの外部機関や産業界とも連携してSTEAM教育エコシステムを構築し文理融合教育を推進する。この取り組みを通して、「Society 5.0を実現し牽引できる人材：優れたイノベーション能力に加えて人類や国際環境に対してグローバルな視点を有する人間性豊かなSTEAM人材」を育てる。また、「本物」からの学びによるアントレプレナーシップ教育や、理数系学びに関するジェンダーギャップの解消にも取り組む。</p>
<p data-bbox="225 1469 424 1536">沖縄工業高等専門学校</p> <hr/> <p data-bbox="177 1693 472 1827">Society 5.0で「ちゅら海を科学する」若きダーウィン養成プロジェクト</p> <p data-bbox="260 1859 389 1895">【小中型】</p>	<p data-bbox="501 1491 1420 1939">沖縄の豊かな海を愛し、AI、ICT、ロボット工学など著しい発展を遂げる情報工学や関連する種々のツールと生物学、化学、環境科学などの分野に興味がある小中学生を募集し、沖縄の海の生物、海洋環境、海洋調査などを通して、科学的・論理的思考力と調査・研究技術の育成を行う。個別に研究テーマを設定し、AI/ICT技術やドローンなどを活用し、Society 5.0を意識した研究手法を身に付ける。研究活動の実践により、探究能力と社会実装資質を伸長する育成プランの開発実施を行う。本企画による人材育成手法は成果の把握と改善を通して有効性の向上を図る。優秀な受講生は、沖縄工業高等専門学校へ推薦試験などを利用し、本科→専攻科→大学院→研究者のルートを示し、最終的に沖縄の活力を生む人材として地域へ還元する。</p>

機関名	企画概要
企画名	
国立情報学研究所 （共同機関：情報オリンピック日本委員会、情報処理学会）	<p>現在、日本の情報学分野における高校生のトップ才能は、自信を持って世界トップクラスといえる。しかし、日本における情報学分野のエリート研究者養成は、高校年代で世界トップクラスの才能を多数抱えているにもかかわらず、高校、高専、大学、そして大学院と連携・接続がない状況である。このような状況を鑑みて、本企画では、高校年代の情報学分野のトップ才能と、大学・大学院のエリート研究者との接続を行い、さらに日本を代表する情報学分野の研究者との共同研究の場を提供する。特別優秀なトップ才能には、海外の著名研究機関で、一定期間研究する機会を提供する。</p>
情報学のトップ才能からエリートへ才能の発掘、接続、達人の養成—  <b>【高校型】</b>	
奈良先端科学技術 大学院大学	<p>大学のさらにその先に広がる探究・研究の世界を高校生が見て、知って、飛び込むことのできる育成プログラムを、大学院大学と多彩な連携機関だからこそ可能なカリキュラムと指導体制で構築し実践する。具体的には、高い専門性と類いまれなる研究資源を持つ研究機関および先端科学技術を世界や地域で駆使する企業、機構、自治体と連携することで「知る」を強化し、役割の異なる複数メンターと主体性にあふれる受講生とが一丸となって探究を成し遂げる指導体制によって「創る」を強化する。STEAM教育にも通じる一貫した学修プロセスを高等学校・教育委員会と共に創り上げ、次世代型理数系人材に求められる「新しい価値を生み出し未来を形作り活躍する力を支える有能さ（コンピテンシー＝資質・能力）」を高校生から引き出し、強化・拡張する。</p>
「共創」が育む主体性の未来 高院の連携実績と広範な学術・国際・地域ネットワークで挑む次世代型理数系人材の育成  <b>【高校型】</b>	
愛媛大学	<p>愛媛大学のグローバルサイエンスキャンパス（GSC）事業Ⅰ期目および後継事業で構築した全学的な科学者技術者育成プログラムの実施体制「愛媛モデル」を礎として、四国全域に高大接続事業を展開させることで、地域と世界の未来を牽引する人材を育成し、魅力ある四国の未来創生に取り組んでいく。課題解決能力に秀でた人材を育成することは、地域での人材育成と地方創生の好循環を生み、全国に先駆けた次世代人材育成の「四国モデル」構築につながる。本企画では、地域と世界で活躍する「グローバルフロンティアリーダー」を育成するため、①科学アントレプレナーシップ、②科学的探究力、③異文化適応能力の習得と向上を目指し、「科学者・技術者育成型」「アントレプレナー育成型」「早期育成型」の3つの育成型により、「地域に根を張り世界に挑む」多様な人材を大学と地域が連携し長期的に育成することを目標とする。</p>
四国型次世代科学技術チャレンジプログラム ～地域と世界の未来を創造するグローバルフロンティアリーダーの育成～  <b>【高校型】</b>	

機関名	企画概要
企画名	
<p>東北大学 (共同機関：岩手大学、宮城教育大学)</p> <hr/> <p>小中高大連携型「科学者の卵養成講座」</p> <p>【小中高型】</p>	<p>研究型大学として世界的な研究成果を多数発表している東北大学を中心に、共同機関の岩手大学と宮城教育大学、そして東北・北関東地区の各教育委員会などと連携し、卓越した意欲および能力を持つ小中高校生を集め、将来国際的に活躍できる「科学者の卵」を養成するプログラムを実施する。未知なる科学に対する強い興味と探究心を持つ小中高校生を広く募集し、長期に育成するプログラムを実施する。大学の多彩な研究教育資源を活用し、高レベルの講義や実習と研究活動、加えて多様な価値観を持った人的交流を通して、領域横断的な発想力と試行錯誤の中で真理を見つける「科学の眼」を持つ科学技術人材育成を目的とした、世代を超えた小中高大連携型STEAM教育を実施する。</p>
<p>東京大学</p> <hr/> <p>未来を切り拓くグローバル科学技術人材の育成プログラム：UTokyoGSC-Next</p> <p>【小中高型】</p>	<p>社会の複雑性・不確実性が増している中、未来に向けて不確かな時代を切り拓く幅広い見識とアントレプレナーシップにつながる主体性・創造性を持つ人材育成は急務である。本企画では、世界トップレベルの総合大学としての「総合知」を基盤に、複数回の課題研究を通して小中高課程をシームレスにつなげる3段階の教育プログラム「UTokyoGSC-Next」を開発し実施する。グローバルな視点に立って「新しい知の創造」、そして「社会的価値の創造」を実現できる総合知を育み、主体性・創造性を持つグローバル科学技術人材の育成を目的とし、教科等横断的なSTEAM教育を通して、発達段階に応じた5つの能力、①知識俯瞰能力、②情報分析能力、③課題発見・解決能力、④コミュニケーション能力、⑤研究検証能力を育成することを目標とする。</p>
<p>金沢大学</p> <hr/> <p>小中高大院混成プログラムによる未来の課題を探究・克服する科学技術イノベーターの育成</p> <p>【小中高型】</p>	<p>本企画の狙いは「好奇心と自発性」を持つ全国の小中高校生が、最長5年間の長期にわたる教育・研究活動を通じて、好奇心を広げつつ広範な科学知識と技術を修得し、主体性と探究力を飛躍的に向上させる場の構築にある。まず科学技術の知見を吸収し、課題を探究できる「意欲と素養」を持つ児童生徒を見だし、個性と関心に寄り添って、知識、意欲、資質をさらに伸ばせる「さまざまな場」を提供する。その学びにより、科学技術を正しく理解し駆使する基盤的な知見を備え、自らの頭で考えて自然や社会の課題を発見し、主体的に解決方法を追求・活用することで、科学技術をはじめさまざまな分野の発展や世界の課題の解決を先導できるイノベーション人材の輩出を目指す。</p>

## 次世代科学技術チャレンジプログラム 推進委員会 委員一覧

(委員は五十音順)

	氏 名	所属・役職
委員長	神崎 亮平	東京大学 先端科学技術研究センター シニアリサーチフェロー
副委員長	隅田 学	愛媛大学 教育学部 教授
委員	伊藤 哲史	京都大学 大学院理学研究科 准教授
委員	金本 吉泰	酪農学園大学 准教授
委員	木村 健太	武蔵野大学附属千代田高等学院 校長
委員	白木原 香織	鈴鹿工業高等専門学校 機械工学科 准教授
委員	西嶋 美保子	アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc. 政策渉外担当ディレクター
委員	野村 和弘	学校法人河原学園 未来高等学校 校長
委員	福田 公子	東京都立大学 理学研究科 准教授

(所属、役職は令和5年5月25日時点)

※利害関係があると考えられる委員は、当該応募機関の審査・選定には一切関与していない。

## 次世代科学技術チャレンジプログラム 令和5年度募集概要

## 1. 趣旨

本事業では、科学技術イノベーションを牽引する次世代の傑出した人材を育成するため、初等中等教育段階（小学校高学年～高校生）において理数系に優れた意欲・能力を持つ児童生徒を対象に、その能力のさらなる伸長を図る多様な育成プログラムの開発・実施を支援します。

育成プログラムについては、探究活動、STEAM教育、アントレプレナーシップ教育、国際性の付与などの高度で実践的な取り組みをはじめとした、実施機関や地域などの特徴を生かした多様で挑戦的な取り組みを求めます。これに加え、本事業の中で開発された人材育成手法について継続的な成果の把握、事業改善を通じて有効性の向上を図るとともに、広く普及させることで社会全体への効果の還元も目的とします。

## 2. 募集対象

国公立大学（大学院大学を含む）、高等専門学校、公的研究機関、科学館、博物館、公益法人、NPO法人、民間事業者（※法人格を持つことが必要）およびこれらの施設・法人の共同による実施

## 3. 支援期間

最長5年間

## 4. 採択数・支援額

13件程度（1機関当たりの支援上限額 小中型：1,000万円、高校型：3,000万円、小中高型：4,000万円／年度）

## 5. 募集期間

令和5年2月9日（木）～3月29日（水）

## 6. 募集の詳細

募集の詳細については下記のホームページを参照してください。

<https://www.jst.go.jp/cpse/stella/>